

—— 子どもから大人まで楽しめるプログラム ——

- ♪ アンパンマンのマーチ
- ♪ ビゼー:「アルルの女」第2組曲から「メヌエット」「ファランドール」
- ♪ ドヴォルザーク:スラブ舞曲集第1集から第1番
- ♪ J.S.バッハ:G線上のアリア
- ♪ アンダーソン:
シンコペイテッド・クロック/プリंक・プランク・プルンク
- ♪ チャイコフスキー:
バレエ組曲「くるみ割り人形」から「行進曲」
「あし笛の踊り」「トレパック」「花のワルツ」
- ♪ 鉄腕アトム



※曲目は都合により変更になる場合がございます。
ご了承ください。



お届け便



東京21世紀管弦楽団

2019年に設立。浮ヶ谷孝夫(ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト首席客演指揮者)を音楽監督に迎え、定期演奏会では、ベートーヴェン、ブラームス、ブルックナー、シューベルトといった重厚なドイツ音楽で圧倒的な成功を収めている。クラシック音楽を広く普及させる定期公演、自主公演は東京国際フォーラムホールC、東京芸術劇場を拠点とし、紀尾井ホール、サントリーホール、東京オペラシティコンサートホールなど都内の主要なホールで活動をしている。2019年オスカー新人賞を受賞したテノールのステファン・ポップ、オペラ界のビッグスター、ファン・ディエゴ・フローレス、ヴィットリオ・グリゴーロとの共演。2021年、オペラシティにて行われたベートーヴェン「第九」は、満席の聴衆を魅了し大成功を収めた。2022年6月、第18回ショパン国際コンクール第3位入賞のマルティン・ガルシア・ガルシアとの協奏曲のタベ、同年8月東京国際フォーラムホールAでのミュージカル「ラ・ラ・ランド」6回公演、11月オーチャードホールで「BBC PROMS」に出演し好評を博した。12月東京芸術劇場にて「第九」公演は多くの聴衆から高く評価された。2023年1月「ホセ・カレーラス&ブラシド・ドミンゴ」コンサートに出演し好評を博すなど、その活動の場を広げている。

宮松重紀 (指揮)

横浜生まれ。横浜国立大学を卒業後、東京藝術大学指揮科を首席にて卒業。指揮を山田一雄、遠藤雅古の各氏に師事。イタリアのキジアーナ音楽院では、ロジェストヴェンスキーに師事。東京二期会等のオペラ公演において、小澤征爾、チョン・ミョンフン、大野和士らの下で公演に参加、2008年にはミラノ・スカラ座にて研修し、現地での公演にも参加し研鑽を積む。これまでに、東京フィルハーモニー交響楽団・東京交響楽団・東京シティフィルハーモニック管弦楽団・神奈川フィルハーモニー管弦楽団・仙台フィルハーモニー管弦楽団をはじめ、国内主要オーケストラでの公演や、新国立劇場をはじめ全国各地でオペラ公演でも指揮し好評を博す。また、東京オペラシンガーズとの関係も大変深く、ウイーン・フィルハーモニー来日公演(小澤征爾指揮)、サンクトペテルブルク・フィル(デミルカーノフ指揮)、シカゴ交響楽団(ムーティ指揮)、NHK交響楽団 東日本大震災チャリティー・コンサート《第九》(ズービン・メータ指揮)をはじめ、国内での定期演奏会等に合唱指揮者として客演する。クラシック以外にも活動を広げており、エイベックスから東京フィルによるアニメ音楽のCDが発売されている。東京藝術大学大学院オペラ専攻講師、東京音楽大学指揮科講師を経て、現在、東邦音楽大学音楽科講師、横浜国立大学の講師として、後進の育成に情熱を注いでいる。

